

薬草園だより

令和7年7月

暑さが日ごとに増し、いよいよ夏の気配が濃くなってまいりました。薬草園にも初夏の彩りが広がり、風に揺れる草花たちが季節の移ろいを伝えています。今回は、今まさに真っ赤に実ったジューンベリー、金と銀が競い合うように咲くスイカズラ、そして構内を色とりどりに華やがせるアジサイたちをご紹介します。



ジューンベリー

バラ科ザイフリボク属

学名：*Amelanchier canadensis*

和名：アメリカザイフリボク

花言葉：穏やかな笑顔

6月頃から赤い実がなるため、英語のJune(6月)から「ジューンベリー」の名がついたと言われています。

ジューンベリーは4月頃から開花を始め、徐々に果実が色づき、5月には真赤になります。6月に果実が黒ずんだ赤色になった頃が美味しく食べ頃になります。

摘み取ったジューンベリーの果実は、生のままを食べるとブルーベリーに似た甘さが口の中に広がります。また、ジャムやコンポートに加工するのもオススメです、さまざまな楽しみ方ができます。

ただし、ジューンベリーは日本に自生するザイフリボクと似ているため、見分けには注意が必要です。どちらもバラ科ザイフリボク属の落葉樹で、花の咲き方や葉の形など細かな違いはあるものの、最も大きな違いは果実が熟す時期です。ジューンベリーはその名のとおり6月に赤く熟すのに対し、ザイフリボクの果実は10月に黒紫色に熟します。



アジサイ

ユキノシタ科アジサイ属

学名： *Hydrangea macrophylla*

別名：シチヘンゲ、紫陽花

花言葉：移り気、辛抱強さ

アジサイの花の色の変化は、花に含まれる色素アントシアニンと、土壌中のアルミニウムとの化学反応によって起こります。一般的に、酸性の土壌では青系の花色に、アルカリ性の土壌では赤やピンク系の花色になります。

しかし、実際には土壌の水分量やリン酸の含有量、肥料のバランス、品種特性など、さまざまな要因が複雑に関わっており、単純にpHだけで決まるわけではありません。そのため、同じ場所に植えても微妙に色合いが異なるアジサイが咲くこともあります。

このように、自然の変化が生み出す彩りも、アジサイならではの魅力です。

スイカズラ

スイカズラ科スイカズラ属

学名： *Lonicera japonica*

生薬名：忍冬(にんどう)、金銀花(きんぎんか)

花言葉：愛の絆、献身的な愛



名前の由来には諸説ありますが、甘い蜜を吸うことができることから「スイカズラ（吸い葛）」と呼ばれるようになったとされています。英名 *Honeysuckle* も「honey（蜜）」と「suckle（吸う）」に由来して名付けられています。

スイカズラの花は、咲き始めは白色ですが、次第に黄色へと変化します。この白と黄色の花が入り混じって咲く様子が、「金（黄色）と銀（白色）の花」とたとえられ、「金銀花」と呼ばれるようになったのです。

生薬としては、葉の部分を「忍冬（にんどう）」、花の部分を「金銀花（きんぎんか）」と呼び、利尿や解毒などに用いられます。忍冬は「治頭瘡一方（ちづそういっぽう）」という漢方薬に、金銀花は「荊防敗毒散（けいぼうはいどくさん）」に配合され、古くから民間医療で親しまれてきました。

